

前回の箇所イエス様は、すべての食物をきよいとされ、人から出るものが人を汚すとされました。更に新しいことをされました。それはイエス様が異邦人の所へ行かれ、異邦人の救いを示されたことです。本日は、ギリシア人で、シリア・フェニキアの生まれの女性の姿から、私たちの信仰について示唆を受けたい、励ましを受けたいと願います。

この女性の行動から学びましょう。

一つ目は、彼女の行動の素早さです。「すぐに」ということは、マルコの福音書によく出てくる言葉でもあります。間をあげないで、考えていないで、ということになります。もう一つは、用意ができていたと言えます。

さらに彼女は、イエスのことを聞きやって来て、「すぐに」その足もとにひれ伏しました。ここから私たちが学ぶことは、イエス様の再臨に備えるということです。

二つ目は、彼女は率直に、願いました。 参照 マタイの福音書15:22

自分の娘から悪霊を追い出して下さるようイエスに願ったことです。

彼女には、できますならばと、という言葉がなく、この方以外に救いが無い事を認識しての願いでした。彼女から必死で率直に願うことが学べます。

三つ目は、食いが下がったことです。「主よ。食卓の下の小犬でも、子どもたちのパン屑はいただきます。」 参照出エジプト4:22 子どもたちとは、イスラエルの家のことです。小犬とはそれ以外の人々で異邦人です。彼女は逆らわずに、素直に、〈そのとおりです〉(28)と言いました。その上で、望みを失わず、落胆せず、信仰をもって求め続ける姿勢をここに見ることが出来ます。パンは“増えるパン屑”と理解できます。イスラエルの人を越えて異邦人にもパンが行き届くのです。

四つ目は、彼女は、イエス様のことばを信じ切りったことです。

イエス様が、「帰りなさい。悪霊はあなたの娘から出て行きました。」と言われただけで彼女はそれを信じました。イエス様の言葉に真実があることを信じたのです。イエス様を信じ切るといふ、異邦人の信仰が示されました。このことがイスラエル人に示されました。それは私たち異邦人の為であります。

ここでもう一つのことは、神様だけができる、つまり決めた人だけが変更できることをなされました。神の民だけでなく異邦人への救いを示されました。異邦人にも救いがあります。食べ物規定であった異邦人との壁が廃棄され、異邦人が受け入れられる備えができていたのです。

結語

先週はイースターでした。教会で 復活を共に祝うことはできませんでしたが、私たちの信仰は一つ、教会は一つです。イエス・キリストに在って一つとされています。

主イエス様は、ご自身の目的を達成させるために、神の国を宣べ伝え、神であることを示されました。異邦の地にいる異邦人にも救いがあることを示されました。イエス様は、全ての人の内に罪があることを教えました。その罪を取り除くのは、罪がないイエス様だけです。イエス様は人々の罪を負い、十字架にまで従われました。死んで三日目に復活され、死を打ち破り私たちから死への恐れと死を取り除いて下さったのです。主が私たちを苦しめる罪、悪から解放して下さいました。これが救いです。よみがえりの主、救い主イエス様をいつも覚えましょう。